

目指すべき学校像	国際社会に生きる人材育成を最高の目標とし、人格の完成、豊かな情操を育み、探求心旺盛な自主的・自律的な精神に満ちた心身共に健全な人間育成に期する。
----------	--

中期的目標	A 在日韓国人としての自覚と矜持を涵養する。 B 国際社会に主体的に適応できる能力を育てる。 C 自主的な生活実践を通して社会に奉仕する人間を育成する。 D 個性を伸ばし、創造性を育てる。
-------	---

達成度	A+	大いに達成 (90%以上)
	A	ほぼ達成 (80%以上)
	B	概ね達成 (70%以上)
	C	変化が見られ (40%以上)
	D	不十分 (40%未満)

達成度は、児童アンケートで、「A：よく当てはまる」「B：やや当てはまる」の数値（%）の合計で表す。

重点目標	設問番号	今年度の重点目標	具体的な取組内容	評価指数	達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
A と在日韓国人としての自覚を涵養する。	13, 20	○学年に応じ、韓国語の効果的な指導方法を研究する。	<ul style="list-style-type: none"> ・韓国の学校で使用しているICT教材の活用 ・建国オリジナル教本の活用 ・低学年のクラス編成 ・韓国語級数試験に向けての効果的な学習方法とフォローアップ学習の継続 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習の楽しさ、授業の充実度 ・学習内容の定着 ・民族教育の充実度 ・能力試験の級数取得率 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の8割以上が、韓国語学習に意欲的に取り組み、語学力の向上を実感している。 ・保護者アンケートでは、語学力、民族教育の充実度は9割以上と高評価を得た。 ・級数取得率9割。韓国語学習が自分のためになっていると肯定的な意見も9割以上を得た。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・全般的な方案は継続していく。学年が上がっても、興味、関心、意欲を持って韓国語学習に取り組めるよう、更なる授業研究を図る。 ・ルーツを持たない児童への韓国語学習や民族教育のサポート体制を図る。 ・教材や試験方法の検証。効果的な学習法、実施時期や回数を検討する。
B 国際社会に主体的に適応できる能力を育てる。	3, 4, 5, 6 9 7, 8 14	<ul style="list-style-type: none"> ○基礎学力の定着及び向上をめざす。 ○ICTや副教材を活用し、語学力の向上をめざす。 ○学級全体の前での発表する力や、ペアでの意見交換する力を育てる。 ○指導要領の改訂に伴い、教科内容を研究し、指導計画を作成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習支援員の授業への入り込みや個別学習の実施 ・学習教材の統一と家庭学習 ・英語Recitation大会、TOEFL Primary受験導入 ・ペア学習による発表の習慣化 ・英語の学習形態の確立、1年生から「書く」活動を取り入れ、4技能をバランスよく学習 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業や学習の定着と読書量 ・タブレット学習の向上 ・意見発表、体験型学習の実践 ・英語の語学力向上 	<ul style="list-style-type: none"> ・9割近くの児童が授業は分かりやすいと感じ、宿題などの家庭学習も身につけている。 ・タブレットは高学年での使用を推奨しており、順当な結果を得た。 ・発表実践の評価では、低学年では8割、高学年でも7割以上と毎年微増している。 ・低学年では8割、高学年では7割以上が肯定的に英語を学習した。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・学力定着・向上については、低学年は学習支援員による個別学習や授業への補助員、高学年では放課後のフォローアップ補習など児童に応じた支援を今後も継続していく。また、取組みを広く保護者へ周知していく。 ・児童の発達段階、課題や目的に応じて情報手段を主体的に活用していく。タブレットの設備充実を図る。 ・授業アンケート、研究授業を継続し、教員の授業の取り組みに対する意識の向上と研鑽を図る。 ・全般的な方案は継続していく。家庭へhomeworkの周知と英語イベントへの参加人数を増やしていく。
C 社会的な生活する実践間を通して自主的に奉仕する。	10, 15	<ul style="list-style-type: none"> ○子どもたちの成長にそって、年間カリキュラムを作成し、体験学習を行う。 ○他人の痛みがわかる心を育てる。 ○1年に2回以上、いじめに関する(学校生活)アンケートを実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・社会見学、スキーや田植え、稲刈り、湖上活動、広島への平和学習など ・年間を通じ学年の成長に沿った課題をたて、障がい理解教育を実施 ・教員間の情報共有と普段から子どもの話に寄り添う体制づくり 	<ul style="list-style-type: none"> ・命の大切さを学び、他者を思いやる心や活動の実践 ・いじめアンケートの実施と検証 	<ul style="list-style-type: none"> ・人権や福祉学習を通じて、周りの人を理解する肯定的評価は、全学年8割以上だった。 ・早い段階からスクールカウンセラーや支援担当教職員を配置し、問題解決にあたる体制が整ってきた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・いのちの授業や福祉授業の方策は継続しながら、より子ども達が自主的で発展的な活動が行えるよう、教員の研究や研修への参加を推進していく。 ・今後も子どもが困りごとを相談しやすい校内環境づくりに努める。教員による積極的な声かけや見守りを継続し、問題を早期発見し、チームで解決する体制を継続していく。
D 個性を伸ばし、創造性を育てる。	1, 2, 11, 12, 16, 17, 18, 19	<ul style="list-style-type: none"> ○進んで努力する子、はきはき元気な子、互いに助け励まし合う子どもを育てる。 ○教員一人ひとりが子どもの声に耳を傾ける。 ○皆が共に、楽しい学校生活を送れるようマナー向上をはかる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・運動会、学芸発表会、児童会活動、縦割り活動、6年生の1年生世話係りなど ・全教員が児童の活動に関わる。 ・児童情報の共有、指導法の統一 ・年2回以上の集団下校指導やふり返りシートの実施 ・生活時間や校内ルールの明確化 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校行事の活発化 ・自己肯定感や自己達成感 ・協働意識や規範意識 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の9割以上が、学習や学校行事に主体的に参加し、友だちと協力し、けじめのある学校生活を送っていると高評価だった。 ・保護者アンケートでは、15項目中10項目が9割以上、4項目が8割以上の肯定的評価を得た。特に民族教育の充実や子どもの自主性の育成、安全管理や家庭との連携などの項目でどれも高評価を得た。 	A+	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も学校行事が個々の自主性や情操教育に繋がるよう計画、実行していく。 ・全般的な方案は継続していく。 ・肯定的な結果も真摯に受け止め、より一層教育活動を充実し、全教員で改善できることを実践していく。